

# 平成30年度 学力向上プラン

学校名

中央区立月島第二小学校

学校の教育目標

心の豊かな子ども・よく考える子ども・たくましい子ども

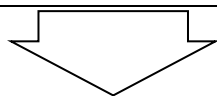
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・基礎学力を確実に身に付けさせるとともに、一人一人の習熟度に応じて学力を伸ばす指導を行う。
- ・児童自ら課題を発見し、主体的に問題を解決する力を身に付けさせる。

平成29年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	国語の読む能力については、5年生では、全国平均を11.9ポイント、6年生でも、東京都の平均を1.8ポイント上回っている。しかし、書くことについては苦手意識が意識調査に見られていたり、全国平均よりも1.6ポイント下回っていたりしている。	普段から、自分の考えを文章に表す活動の回数が少ないことと読書量が少ないことが要因と考えられる。
算数	すべての観点で、全国平均や東京都の平均を上回っている。反面、数量や図形についての知識・理解が区の平均を7.3ポイント下回り、関心・意欲・態度も平均より下回っている。	児童が、問題に対して解決法及び、分かった・できたという成就感を味わえる授業づくりに至っていない。
社会	総合的に全国平均や東京都の平均とほぼ同程度である。しかし、社会的な思考・判断・表現については区平均を4.9ポイント下回り、目標値に到達しなかった。また、問題文を読み取る力については、東京都の平均よりも4.3ポイント下回っている。	社会科に対する知識・理解度は高いが、問題を読んで、必要な解答する力が弱い。文章やグラフを読み解く力を十分に育てられなかった。
理科	各領域について、全国平均や東京都の平均を上回っている。しかし、自然事象への興味・関心・態度は7.3ポイント、「物質・エネルギー」の領域については、6.3ポイントほど全国平均よりも下回っている。	自然事象について、観察や実験を行う環境が少ないことがあげられる。
体育	なわとびを積極的に取り入れていることで主体的に運動している。体力調査の結果、長座体前屈と握力が大きく平均を下回っている。	運動の基礎となる体づくり運動について、体育の準備運動にその要素を取り入れている。準備運動が学級により統一性がない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	学習内容を深く理解し、発達段階に応じた学習の資質・能力を身に付け、児童自らが主体的に学ぼうとする姿勢を全児童に身に付けさせる。
②授業改善	全教員が、言葉の学習や作文、書くことについて、言語の知識・理解・技能の習得のために、個別指導の充実を図る。また、ICTを活用して、児童の興味関心を高める。
③教員の指導力	どの授業においても、全教員がユニバーサルデザインを意識した授業を作ることができるようにする。また、個に応じた指導の充実を図るため、個別支援の手立てを計画する。
④家庭との連携	学校、家庭との連携を深め、家庭学習の定着率を学年において90%以上を目標とする。
⑤その他	全児童に対して体力向上に向けた取り組みの充実化を図る。豊かな人間性を育てるための一環として日常的な読書活動を推進する。



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	児童の実態に合った指導計画を作成し、計画的な指導に合わせて繰り返し指導を行い、基礎・基本の確実な定着を図る。
取組Ⅱ	指導時間内に、どの児童も進歩が実感できるような指導計画の精選と指導方法の工夫を行う。
取組Ⅲ	学習後、学習の様子や理解について、児童に自己評価や相互評価をする時間を設定することにより、学習の意欲を高める。

②授業改善	
取組Ⅰ	算数では、単元ごとにレディネステストを行い、コースガイダンスに基づいたクラス分けをすることで、習熟度に合わせた指導を行う。
取組Ⅱ	パワーアップ学習や放課後・夏休みの「さんすう塾」などを活用し、学習の定着に不安のある児童には、東京ベーシック・ドリル等を活用し、個別の指導を行う。

取組Ⅲ	ユニバーサルデザインの考え方をより一層取り入れ、分かりやすい指示の出し方や板書の書き方、教室掲示、対話のさせ方について指導の充実を図る。また、ICTを積極的に活用し、児童の視覚に訴えるような授業の進め方を推進する。
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ③教員の指導力

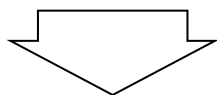
取組Ⅰ	校内研究授業で、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりについて研究を深め、教員の学習指導力の向上を目指す。
取組Ⅱ	若手教員の授業力向上のため、OJT研修を月に1回実施する。その中で、司会進行や協議会運営も自分たちで進められるようにする。
取組Ⅲ	教員相互の授業力向上のため、研究授業だけではなく、普通の授業でも教員同士で授業を見合う時間を設定する。

### ④家庭との連携

取組Ⅰ	各学期に一週間程度家庭での学習を推進する「家庭学習キャンペーン」を実施し、家庭学習の習慣化を図る。
取組Ⅱ	個人面談・保護者会等で、児童の学習状況や努力の様子を伝え、保護者と共通理解を図り、連携を推進する。
取組Ⅲ	学校だより、学年だより、学級通信等で学校での取組や学習内容等、家庭に対して、分かりやすい言葉を使って発信していく。

### ⑤その他

取組Ⅰ	体力調査の結果を分析し、児童の体力や運動能力を客観的に把握することで、課題となる運動能力の向上に向けた取り組みを推進するとともに、体育の授業やスポーツ活動に関する指導の充実を図る。
取組Ⅱ	体を動かす遊びやマイスクールスポーツに加え、基礎的体力・バランス力の向上を目指すコーディネーショントレーニングを推進する。
取組Ⅲ	学校図書館指導員やボランティアによる読み聞かせの指導方法、専門家の保護者を活用した校内研修を行うことにより、読書指導の工夫と充実を図る。



学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"><li>・個別指導やグループ指導といった目的に応じた学習形態の導入や理解度に応じた指導法により、学習の基礎・基本が定着した。また、東京ベーシック・ドリルを活用した放課後「さんすう塾」の補習により、算数を苦手とする児童が減少した。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童自らが主体的に学習活動に取り組むようになった反面、対話的で深い学びが必要と考える。学習内容をすでによく理解している児童が、より深く考えるような学習の展開を校内で広めていく。</li></ul>
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"><li>・算数では、習熟度別にクラスを分けたことで考えるペースが等しくなり、授業の展開がスムーズになった。</li><li>・ユニバーサルデザインの授業を取り入れたことで、授業に対する児童の主体性が上がった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝学習であるパワーアップ学習が、学年ごとに年間計画に沿って進められた。更に計画を見直し、効果のある学習時間にしていく。</li></ul>
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"><li>・校内研修会でユニバーサルデザインの授業づくりを学んだことで、教員がどの教科においてもユニバーサルデザインの視点に立った授業を考えることができるようになった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・若手教員のOJT研修会を計画的に進めていくようにする。</li><li>・教員同士の授業を観察する機会を更に設ける。</li></ul>
④家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"><li>・「家庭学習キャンペーン」を行うことで、家庭学習の達成率が上がった。</li><li>・個人面談や保護者会で児童の様子について情報交換できたことで、クラスの児童理解を深めることができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校だよりや学年だよりの内容について、保護者に対して丁寧に説明していくことを心掛ける。</li></ul>
⑤その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・体を動かす遊びや、マイスクールスポーツを推進したことで、運動に好意をもって臨む児童が増えた。</li><li>・なわとび検定や長縄週間に、運動をする児童が増えたことが成果として挙げられる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・体力調査の結果の中でも、特に長座体前屈の結果に課題があった。体を柔軟にするような動きを、年間を通じて準備運動の中に取り入れていく。</li></ul>